

企業景況・動向調査

●はじめに

「せいしんビジネスクラブ」新春講演会開催時に、当地区企業の景況・動向調査を目的としたアンケートを実施した。概要は以下の通り。

●調査概要

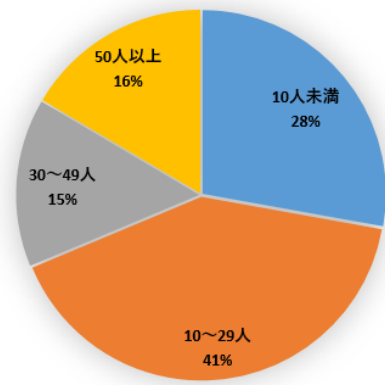
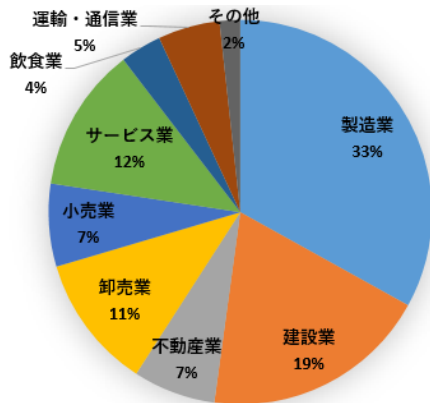
調査時期 : 平成31年1月28日(月)「せいしんビジネスクラブ 新春講演会」開催時

調査対象 : 静岡信用金庫取引先企業の経営者で構成する異業種交流会
「せいしんビジネスクラブ」会員

調査対象企業数 : 183社 有効回答企業数 : 115社 有効回答率 : 62.8%

《業種内訳 (n=115)》

《従業員規模内訳 (n=115)》



●要旨

～売上高は一服感が見られるも、収益面は好調の見通し～

～設備投資は「年内に行う」が増加。好調な景況感、消費税増税が影響か～

～7割以上の中小企業が「人材不足」を懸念しており、「人材確保・育成」に力を注ぐ～

◆ 売上高および経常利益の実績と見通しについて

- ・売上高実績(平成30年7月～12月)は、「増加」が37.4%、「横ばい」が44.3%となった。
- ・売上高見通し(平成31年1月～6月)は、「増加」が27.8%、「横ばい」が58.3%と一服感が見られる。
- ・経常利益実績(平成30年7月～12月)は、「黒字」が85.2%と大半を占めた。
- ・経常利益見通し(平成31年1月～6月)は、「黒字」が91.3%と、企業の収益面は好調の見通しを示した。

◆ 雇用状況・採用予定について

- ・現在の雇用状況は、「不足」と回答した企業が半数を超えたものの、「適正」が平成30年1月調査より5.2ポイント増加しており、一部で状況が改善している様子が見られた。
- ・採用活動については、新卒・非正規での採用予定は少なく、中途での採用を予定する企業が約半数を占め、即戦力人材の確保に注力している様子が窺える。

◆ 設備投資について

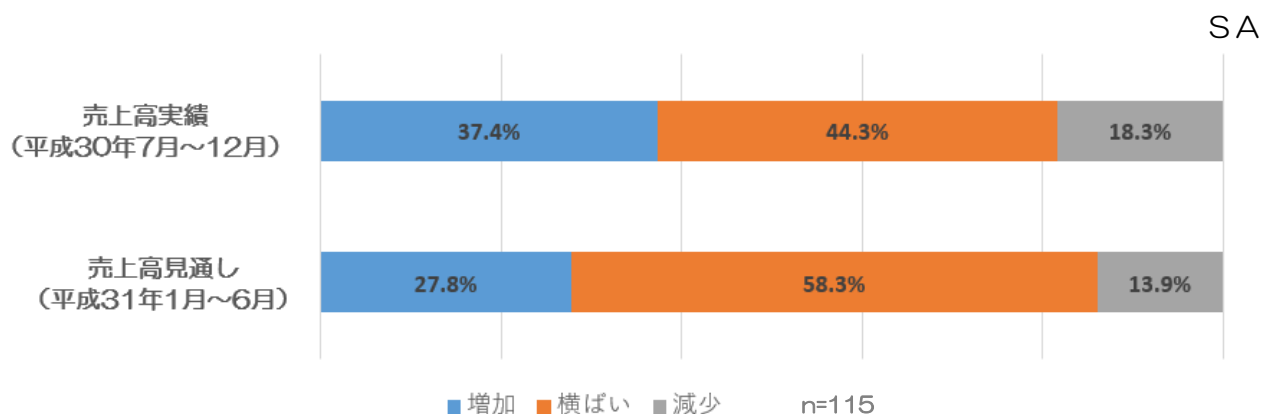
- ・現状の設備状況において、「適正」が5割を超える一方で、4割を超える企業が「不足」と、設備の不足感は一方向に解消されていない様子が見えた。
- ・今後の設備投資の予定では、消費税増税を控えていることもあってか「年内に行う」が33.0%で最多となり、平成30年1月調査に比べ8.4ポイント増加した。

◆ 今後の懸念材料・経営課題について

- ・今後の懸念材料は「人材の確保」が75.7%、「人材育成」が58.3%と依然として人材に関する懸念事項が突出して高い結果となった。
- ・今後の経営課題は、「人材の確保・育成」が76.5%で最多となり、次いで「新規顧客・販路の開拓」(55.7%)と営業面の課題も半数を超えた。人材確保が難しい中、効率的に新規顧客・販路を開拓していくためには、多様な営業チャネルを活用することが解決策の一つとなる。

※本アンケートの数値は小数点第二位を四捨五入しております。

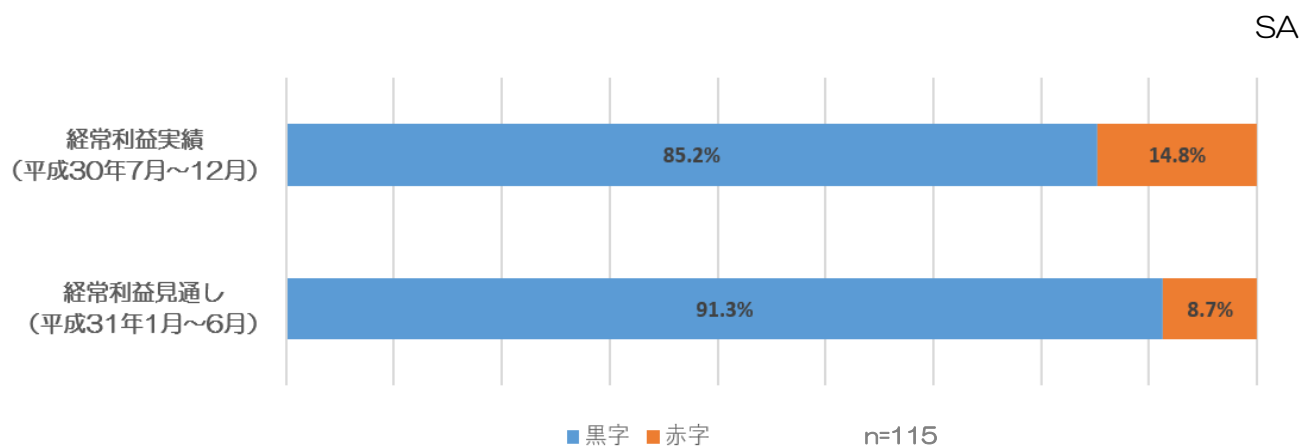
1. 売上高実績と今後の見通しについて



売上高実績と今後の見通しについて尋ねたところ、平成30年7月~12月の売上高実績は、平成30年1月~6月と比較し「横ばい」が44.3%で最多となり、次いで「増加」(37.4%)、「減少」(18.3%)となった。

平成31年1月~6月の売上高見通しについては、「横ばい」が58.3%で最多となり、次いで「増加」(27.8%)となった。「増加」と回答した企業は、実績を9.6ポイント下回るなど、売上高には一服感が見られる。

2. 経常利益実績と今後の見通しについて

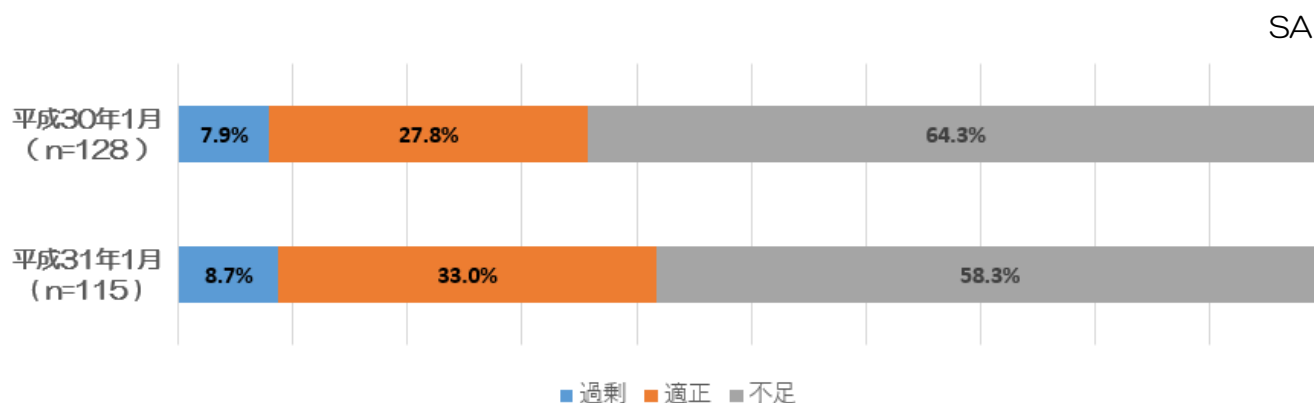


経常利益実績と今後の見通しについて尋ねたところ、平成30年7月~12月実績は、「黒字」が85.2%と、大半の企業が利益を確保した。

平成31年1月~6月の見通しについても、「黒字」が91.3%と、実績を6.1ポイント上回り、収益面は好調な様子が窺える。

3. 雇用状況について

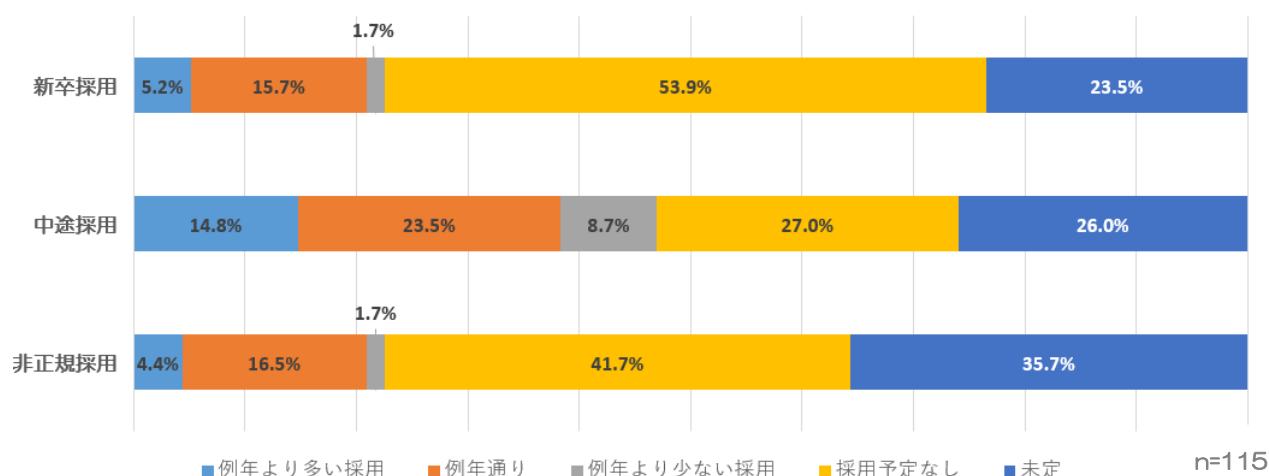
3-1. 現在の雇用状況について



現在の雇用状況を尋ねたところ、「不足」が58.3%で最多となり、次いで「適正」(33.0%)、「過剰」(8.7%)となった。「不足」は半数を超えたものの、「適正」は平成30年1月調査より、5.2ポイント増加しており、一部で状況が改善している様子が見られた。

3-2. 今年度の採用状況について

SA



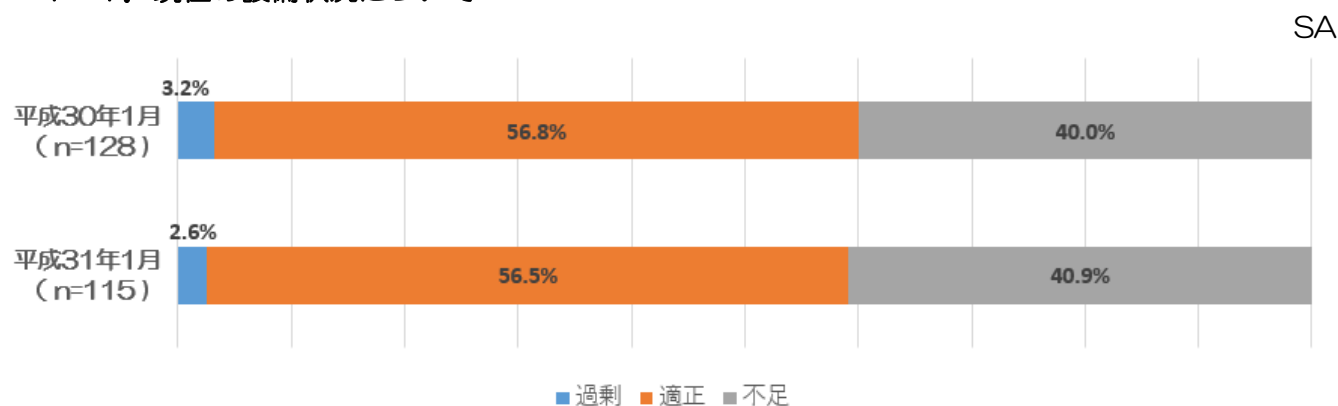
今年度の採用状況について尋ねたところ、新卒採用については、「採用予定なし」が53.9%で最多となり、次いで「未定」(23.5%)、「例年通り」(15.7%)となった。

中途採用については「採用予定なし」が27.0%で最多となり、次いで「未定」(26.0%)、「例年通り」(23.5%)となった。採用予定がある企業(「例年より多い採用」、「例年通り」、「例年より少ない採用」の合計)が47.0%と、新卒採用に比べ高く、即戦力人材の確保に力を注いでいることが窺える。

非正規採用については「採用予定なし」が41.7%で最多となり、次いで「未定」(35.7%)、「例年通り」(16.5%)となっている。

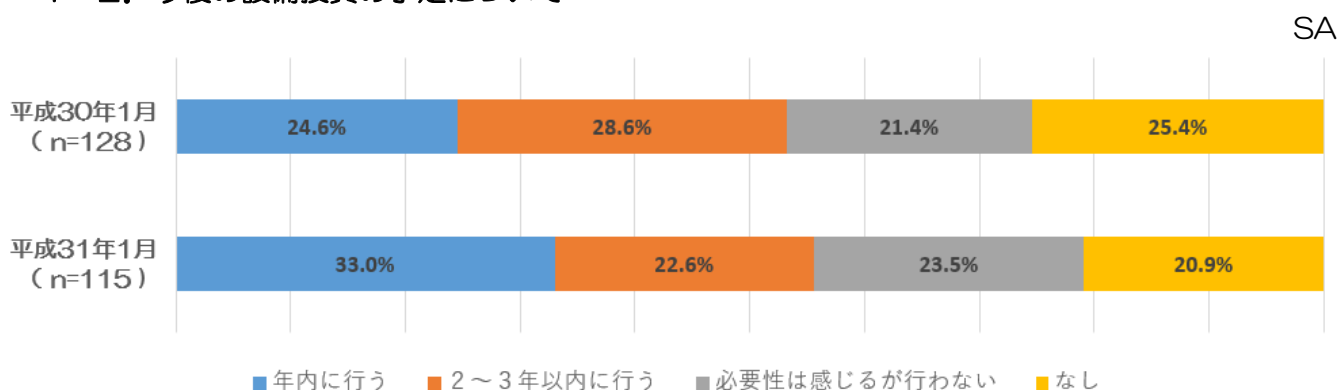
4. 設備投資について

4-1. 現在の設備状況について



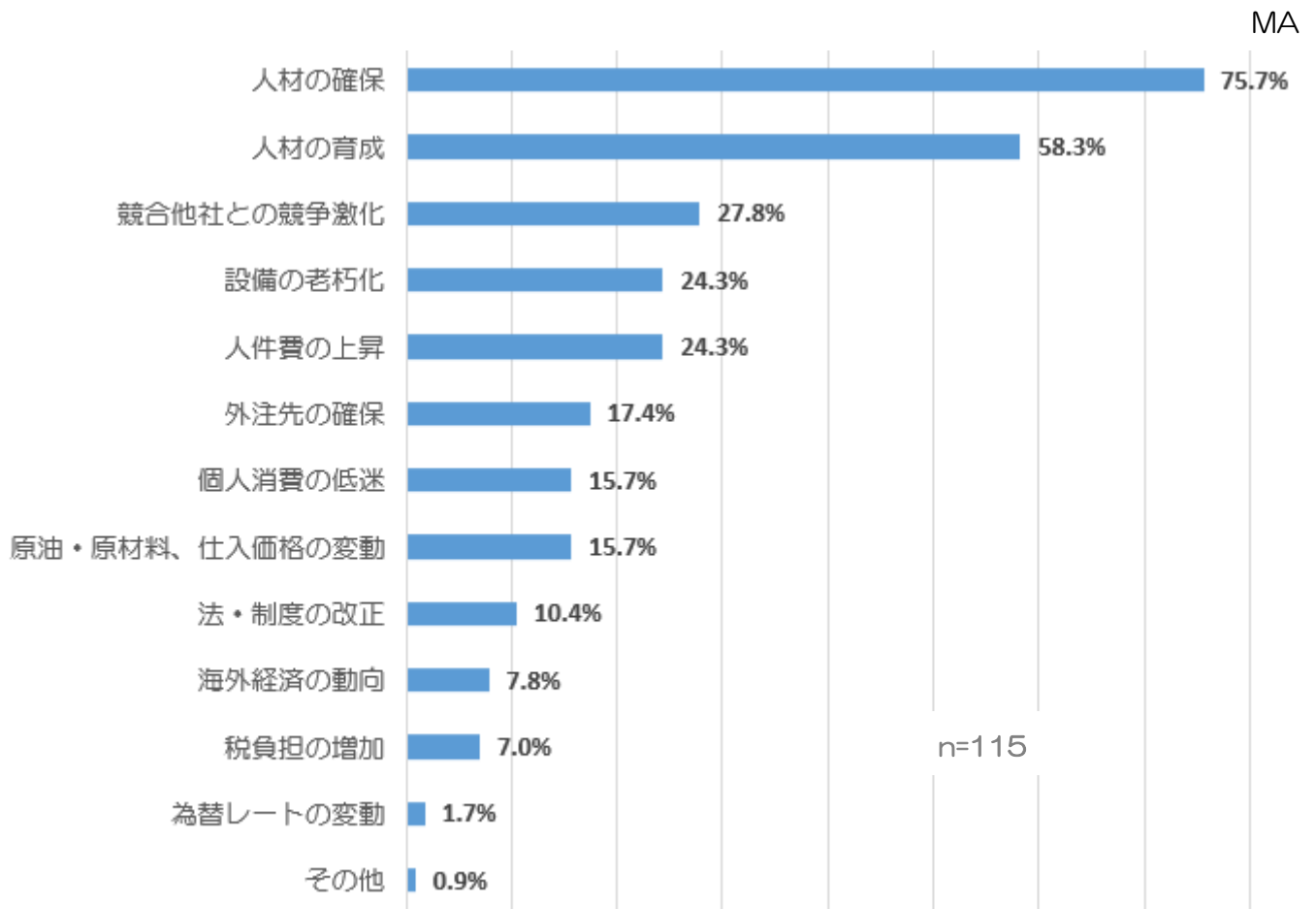
現在の設備状況について尋ねたところ、「適正」が56.5%で最多となった。次いで「不足」(40.9%)となった。平成30年1月調査と同様に4割程度の企業が「不足」と回答しており、設備の不足感は一方向に解消されていない様子が窺えた。

4-2. 今後の設備投資の予定について



今後の設備投資の予定について尋ねたところ、「年内に行う」が33.0%で最多となり、次いで「必要性は感じるが行わない」(23.5%)、「2～3年以内に行う」(22.6%)となった。2019年10月には消費税増税が控えていることもあってか、平成30年1月調査に比べ、「年内に行う」が8.4ポイント増加している。また、「必要性は感じるが行わない」が2割を超えており、一部で設備投資に対して慎重な姿勢を示した。

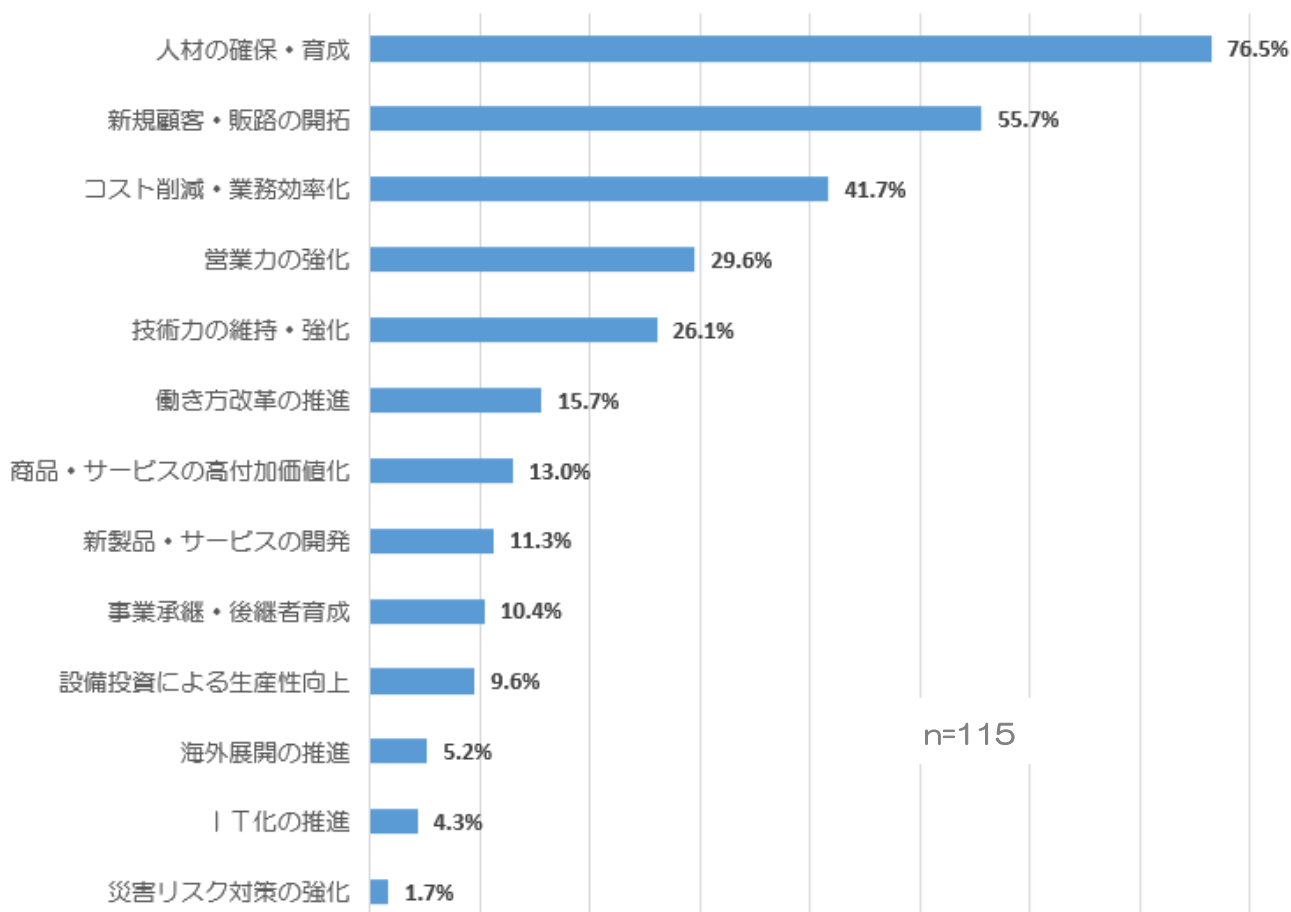
5. 今後の懸念材料について



今後の懸念材料について尋ねたところ、「人材の確保」が 75.7%で最多となり、次いで「人材育成」(58.3%)、「競合他社との競争激化」(27.8%)「設備の老朽化」、「人件費の上昇」(24.3%)となった。人材に関する懸念事項が突出して高く、企業間での人材獲得競争は更に激化することが予想される。

6. 平成31年において重視する経営課題について

MA



平成31年において重視する経営課題を尋ねたところ、「人材の確保・育成」が76.5%で最多となり、次いで「新規顧客・販路の開拓」（55.7%）、「コスト削減・業務効率化」（41.7%）となった。

例年、重視する経営課題に「人材の確保・育成」を挙げる企業が多く、今回調査でも7割を超えた。平成30年12月に改正入管法が可決され、今年4月1日には施行される予定であるため、外国人労働者の活用も対策の一つである。今後の動向に注視したい。

また、「1.売上高実績と今後の見通しについて」では、売上高見通しに一服感が見られたこともあってか、「新規顧客・販路の開拓」が半数を超えている。人材確保が難しい中、効率的に販路開拓していくためには、多様な営業チャネルを活用することが解決策の一つとなる。

（静岡信用金庫 経営相談部 平成31年2月作成）